

 シリーズ「きょうだいの思い」 28

ダンプカー③

ダンプカーに巻き込まれた自転車は、修理が不可能な状態になった。事故直後の弟はパニックになったようで、まさか相手が障害者だと思わなかったダンプカーの運転手は「事故で気が狂ったのかと思った」と、母に話したようだ。

弟のパニックの原因は、事故はもちろんのこと、潰れてしまった自転車を見て混乱したのもあるのではないかと思う。

弟は365日、雨の日も風の日も自転車を乗り尽くす。自宅から3キロ以上も距離がある施設へも、自転車で通う。体格の大きい弟が、歩道の段差も容赦なくガンガンと乗るので、自転車を傷めて、修理に出したり買い替えることが多かった。

いつの時期からか記憶にないが、行きつけの自転車屋のご主人が、とても頑丈な自転車の購入を勧めてくれて、その自転車を乗るようになった。

それはすぐに店頭で買える自転車ではない。自転車の寿命が近い状態ならば前もって注文できるので、弟の手元から“自転車がない状態”にはならないが、この時だけはそうはいかなかった。

「ジテンシャ、カウ。〇〇サイクル！」気になって落ち着かず何度も何度も言う弟に、「〇日〇曜日、〇〇サイクルに自転車を取りに行く」と書いた紙を冷蔵庫に貼っていたのを覚えている。それでも弟は落ち着かないのである。

事故の後、しばらく通院が続いた。春日町の事故現場から救急車で運ばれた先は、八丁畷方面だった。平日、父と私は仕事だったので、自転車がない弟が母と病院へ通う手段はタクシーしかなかった。

タクシーの車内でパニックを起こすことがあったようで、母が疲れ切っていたのを覚えている。約20年前の当時、高槻では知的障害者のガイドヘルパー制度がまだ無かったように記憶している。今のように制度があって、ヘルパーさんに同行してもらえれば、タクシーの車内でも病院の中でも、母も少しは心強かったのではないかと思う。

当時の弟は20代前半だった。この時期は、母が精魂尽きるほどにパニックの連続だった。現在は、パニックの大半は原因がわかるのだが、当時は何が理由でパニックを起こしているのか全くわからなかった。

まえほ  
つうしん  
前穂通信

発行日	2014年3月1日
発行元	自立センター前穂 〒569-1022 高槻市日吉台 1番町21-18 072-689-8600



 お薬のご持参時のお願い ～ショートステイより～

日頃よりショートステイをご利用頂き、ありがとうございます。

ご利用時に服薬のある方へお願いがございます。追加薬等、お薬の変更がある場合には、見落とし、誤薬等の防止のために、個別(朝食後、夕食後等)に同封して頂き、メモ、または電話等の伝達を頂けますようご協力の程、宜しくお願い致します。

現在、皆様にはお薬を個別に分かり易くご持参頂いており、誠に助かっております。今後も安心できるショートステイを目指して参りますので、ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

 知的ガイドヘルパー養成講座開催のお知らせ

人材の養成及び、障がい(児)者の社会参加促進の一環として知的移動支援従業者養成研修の定期的な実施に取り組んでおります。次回は【3月24日(月)・3月31日(月)】の2日間です。お知り合いなど、ご興味をお持ちの方、ご一報お待ちしております。